

屋嶋城跡とは

667年11月に中大兄皇子によって築かれた屋嶋城は、『日本書紀』にその名が記されているにもかかわらず、平成10年の平岡岩夫氏（地元研究者）の発見まで、その正体は謎に包まれていました。その後、高松市教育委員会による発掘調査が開始され、平成14年に城門が発見され、その存在が証明されました。その後、朝鮮半島の築城技術を裏付ける「懸門^{けんもん}」や「甕城^{おうじょう}」などの遺構も確認され、大きな成果を挙げています。

屋嶋城は備讃瀬戸に浮かぶ島という立地に加え、そのメサ地形特有の断崖絶壁が、羨望を活かし、天然の要塞として敵の侵入を阻む構造となっています。山頂で産出する安山岩は、城壁構築に利用され、谷を塞ぎ、断崖絶壁とともに城の防御となりました。

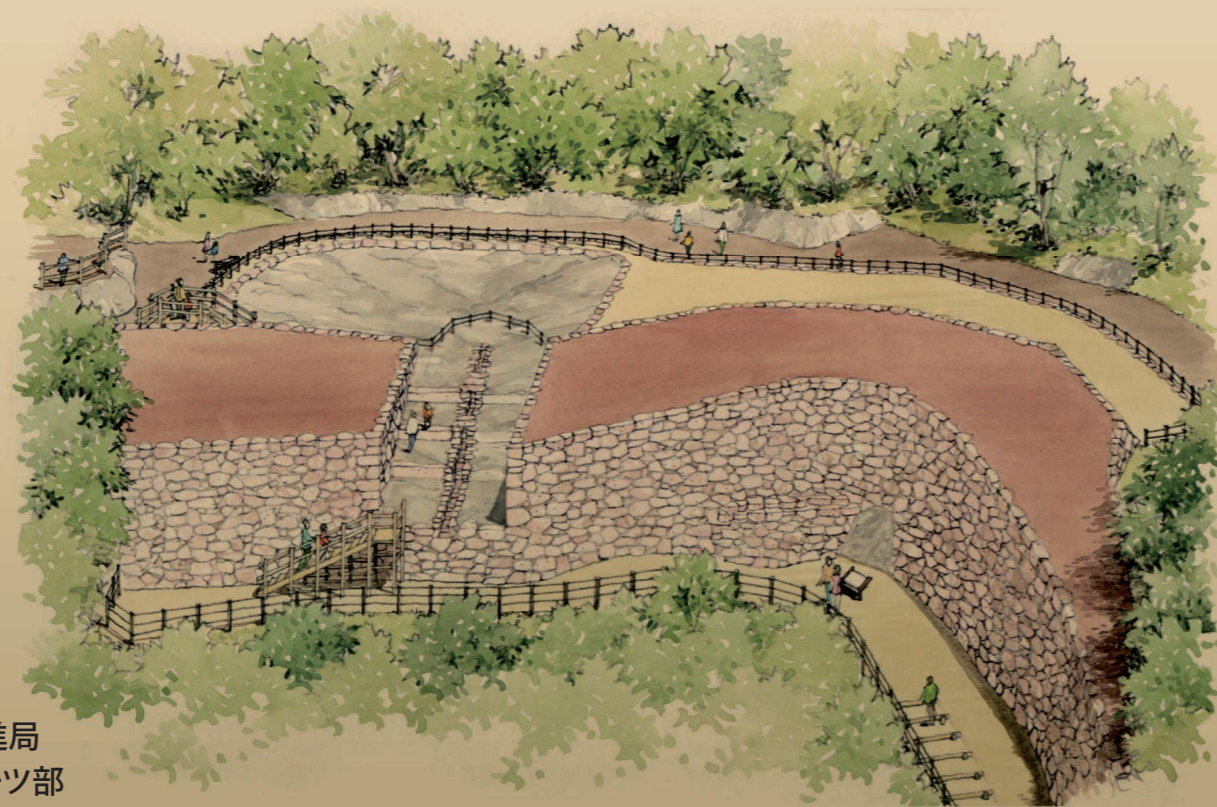
島と山の二つの顔をもつ屋嶋ならではの城づくり言えません。

平成27年度の動向と今後

今後、当時の姿を取り戻した城門及び城壁の周辺環境整備工事を実施し、屋嶋城跡の城門のみならず、屋島の歴史と自然を満喫していただける空間づくりを平成28年3月の一般公開を目標に行っていきます。御期待ください。



【古代の海岸線復元想定図】



【城門遺構完成予想図】

高松市創造都市推進局
文化・観光・スポーツ部
文化財課

The excavation of 2015 in TAKAMATSU

やしまのきあと 屋嶋城跡

城門遺構整備事業

第6回現地説明会
2015.06.20



現地説明会資料

今から遡ること約1,350年前に国土防衛のために中大兄皇子（天智天皇）が築いた屋嶋城は、発見の端緒からおおよそ17年の歳月を経て、その正体をようやく現しました。

往時の姿を取り戻すべく平成20年度から開始しました屋嶋城跡城門保存整備工事は、石積みの解体、転石の回収、試験的な石積みの実施、城壁復元工事と地道な作業を積み重ね、足かけ7年を要して、城壁及び城門部分の修復が完了しました。

今回の現地説明会では、1,350年ぶりに往時の姿を取り戻した城門と城壁を公開いたします。眼前に立ちのぼる城壁と懸門^{けんもん}の迫力を御堪能いただくとともに、国の防衛と国のあり方を模索し試行錯誤した時代に生きた「たかまつ」の人々の情熱や想いを感じていただきたいと思ひます。

高松市教育委員会

城門と城壁の修復プロセス

The excavation of 2015 in TAKAMATSU



1. 城壁根石検出状況



2. 岩盤加工痕跡



3. 丁張り設置状況



4. 懸門仮積み状況



5. 石積み状況①



6. 石積み状況②



7. 城壁遠景



8. 城壁近景



9. 作業風景



10. 城内側石積み解体前



11. 城内側石積み修復状況



12. 割れ石接着状況



13. 城内側石積み
ライン確認作業



14. 盛土施工状況①



15. 盛土施工状況②



16. 排水溝側石検出状況



17. 排水溝設置状況



18. 排水溝修復完了状況



19. 水口修復状況



20. 門道石敷き状況①



21. 門道石敷き状況②



22. 完成した城門

平成 26 年度事業で実施した城門及び城門北側城壁の修復工事は石積みの解体から始まりました。

【城壁】 懸門及び城壁の根石は大きく孕み、城門南側と同様にオリジナルの石積みを残せた箇所は多くはありませんでした。しかし、解体調査によって根石部分の一部は岩盤を加工して設置していることが判明し、屋嶋城跡の城壁において岩盤を加工した痕跡を初めて確認した事例となりました。また、城外に崩落した石の下からは、須恵器の大形の破片が出土しました。

解体によって明らかとなった当時の城壁ラインをもとに城壁の形を復元し、丁張りと呼ぶ勾配の基準をもとに石積みを開始しました。懸門は崩れが著しく、仮積みを数度行いながら修復しました。また、石積みが残っていた箇所についても、検討の結果、大部分が元の位置からかなり移動していることが判明し、写真や図面を見ながら、石工さんと協議を重ねる日々が続きました。

【門道部分】 これまでの発掘調査で、門道には排水溝が確認されていましたが、多くは流出しており、往時の姿を残す箇所は多くはありませんでした。今回の修復に伴う調査によって、最も城内側では蓋石のみならず、排水溝の側石、底石全てが残っていることが判明し、これらをもとに、流出してしまった箇所を復元することができました。排水溝の最も外側に位置する水口に当たる部分は、全く情報がなかったため、他の古代山城を参考に復元しましたが、何度もやり直し、これまでの工事で最も石工さんが苦労された箇所でした。

この排水溝も、門道の中に埋め戻し、暗渠となったため、現在は見ることはできません。門道の表面は特別史跡金田城跡や史跡鬼城山などを参考に、石敷きに復元しました。